

平成 7 年 7 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

沢井・大平遺跡について

青梅市沢井二丁目にある大平（おおだいら）遺跡において、市道の整備工事に伴う遺跡の発掘調査が平成 7 年 5 月 1 6 日から平成 7 年 7 月 3 1 日までの予定で行われています。

大平遺跡は縄文時代中期の遺跡で、海拔 2 4 0 m、多摩川の水面から約 4 0 m 上にあり、JR 沢井駅敷地を含む青梅線を挟んだ南北に広がる広大な遺跡です。平成 4 年度にはその南側（現在の地域保健福祉センター敷地）発掘され、燦層を直に掘ったものや石盤が露出したままの住居跡等 1 1 軒（駅前トイレ敷地を含む）が発掘されました。

今回の発掘その続きとなるもので、青梅線沢井駅北西側には沸水地もみられるところです。

時代的には、主として縄文時代中期（勝坂期、加曽利 E 期）の遺跡であり、地表面から約 1 0 0 cm の所に住居跡が現在 7 軒確認され、それに伴う多くの遺物が発掘されています。発掘の幅が狭く長いので完全に掘り上げた住居跡は少なく、内訳としては、東側から縄文時代前期住居跡 1 軒、中間地点と西側からは中期の住居跡群 6 軒が確認されています。このうち中間地点からは、床面に自然石を敷き詰め、柄鏡のような形にした、縄文時代のある限られた時代だけに造られる住居跡が 1 軒でています。また、土壇（多くは墓の穴）も 1 0 基ほど狭い面積の中で確認されています。

遺物の発見としては、打製石斧約 3 0 点、磨製石斧 2 点、黒耀石等の鏃（やじり）約 1 0 点、石皿 2 点（安山岩製 1 点）などが出土し、特殊なものとしては、多産・安産を願って作られていたとされる。緑泥片岩でできた石棒、出火具として使われていたとされる凹み石なども発見されています。縄文土器においては、ほぼ完全な形に復原可能なもの 6 個体分を含む多くの土器が出土し、中期の勝坂形式に特有な華麗な装飾の部分のうち、顔面把手（がんめんとして）や獣を型どったものも発見されています。

以上の内容が、発掘調査を行っている現在の主な結果です。今回の発掘結果と今までの結果を含め、大平遺跡は東側では縄文時代でも古い時代のものが、そして西側では新しい時代のものが位置するという結果が推測できそうです。これからの詳細な発掘結果を期待するとともに、皆さんも、出来立ての青梅市の原始時代の歴史その目で御覧になってはいかがでしょうか。

- ・ 青梅市文化財保護指導委員会では、川鍋幸三郎指導員を講師としまして8月24日に自主講座を行う予定です。詳しくは次号にてお知らせ致します。
- ・ 現在、青梅市郷土博物館では、写真展『昭和10年代の青梅 ―青梅写友会のあゆみ―』を9月30日まで開催されております。また、8月31日まで『戦時下の暮らし』コーナー展示もあわせて行われています。ぜひ、御覧ください。